

**ケーススタディーの実施報告（詳細版）
（第1回～第3回）**

第1回ワークショップ開催概要

■会議名 第1回伊折地区の将来の地域づくり（土地利用）を考えるワークショップ

■日時 2019年1月20日（日）14時00分～17時10分

■場所 伊折区太田公民館

■出席者 参加者：19名（地区住民）

傍聴：2名、報道：2名

コーディネーター：林准教授（金沢大学）

事務局

国土交通省：栗林課長補佐、

佐藤専門調査官、渡邊係長

長野市中条支所：想田支所長、久保田係長

中条地区住民自治協議会：大日方事務局長

委託業者：KRC 小林室長



全体の会場の様子



A班の討議の様子



B班の討議の様子



C班の討議の様子



コーディネーターの林先生

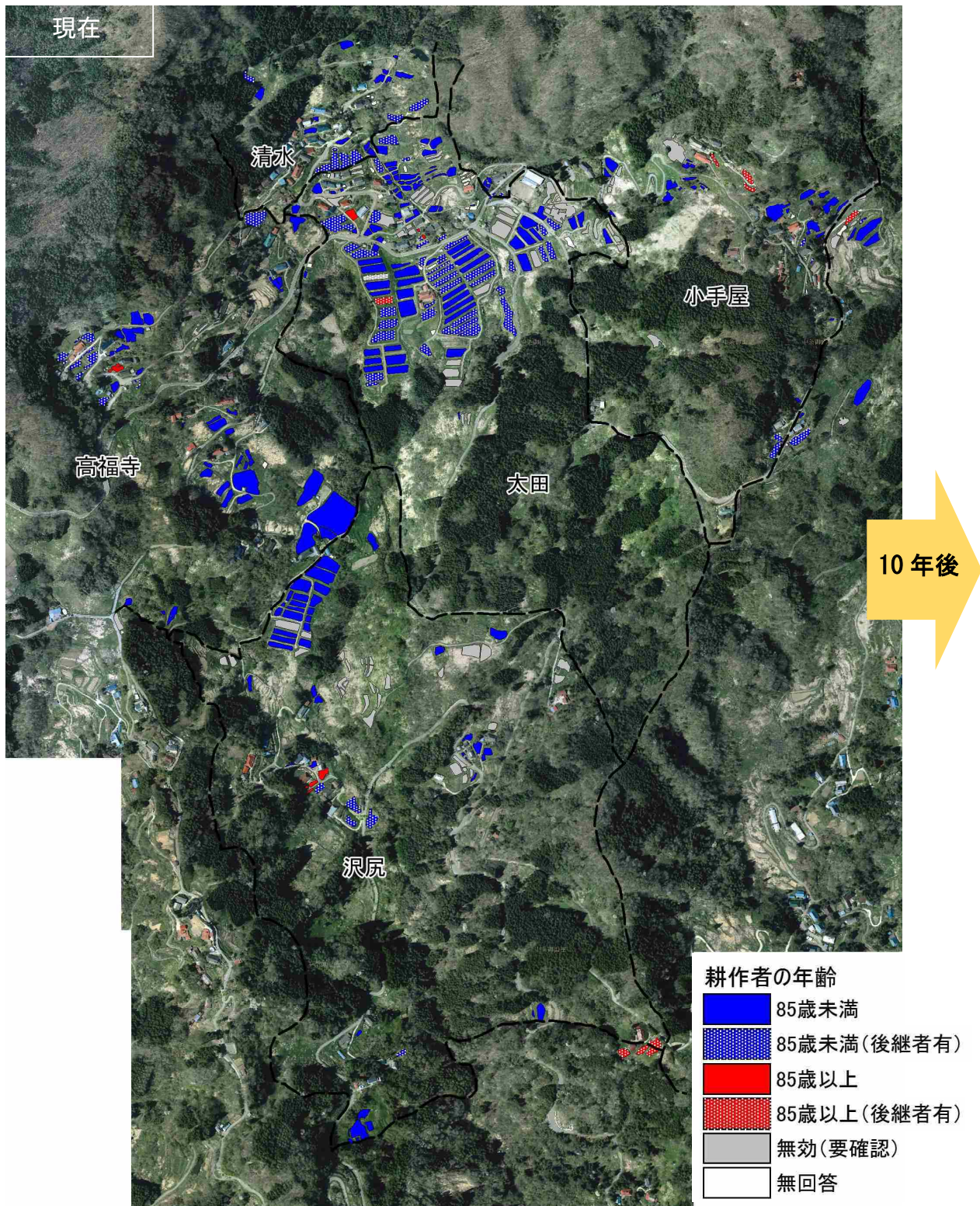
林先生からの冒頭の挨拶

- 10年とか20年といった長い時間スケールを設定して考えてみるということは非常に挑戦的で、日本の中でも先進的な取組になるのではないかな。
- 10年、20年ということ考えたとき、人口が減っても維持ができるような新しい地域の姿を念のため描いておく姿勢が必要となる。
- これまでの20年とこれから先の20年の技術の進化は、全く別次元になる。そうすると将来のことは分からない前提での発想が必要になってくる。
- 回数を重ねていく段階で、人口が増えたときの青写真、減ったときの青写真など、どれがきてもそれなりに対応ができるような、複数の青写真を描いてほしいと思う。

グループ討議その1 “地域のいまを知る（現状の再確認・再点検）”

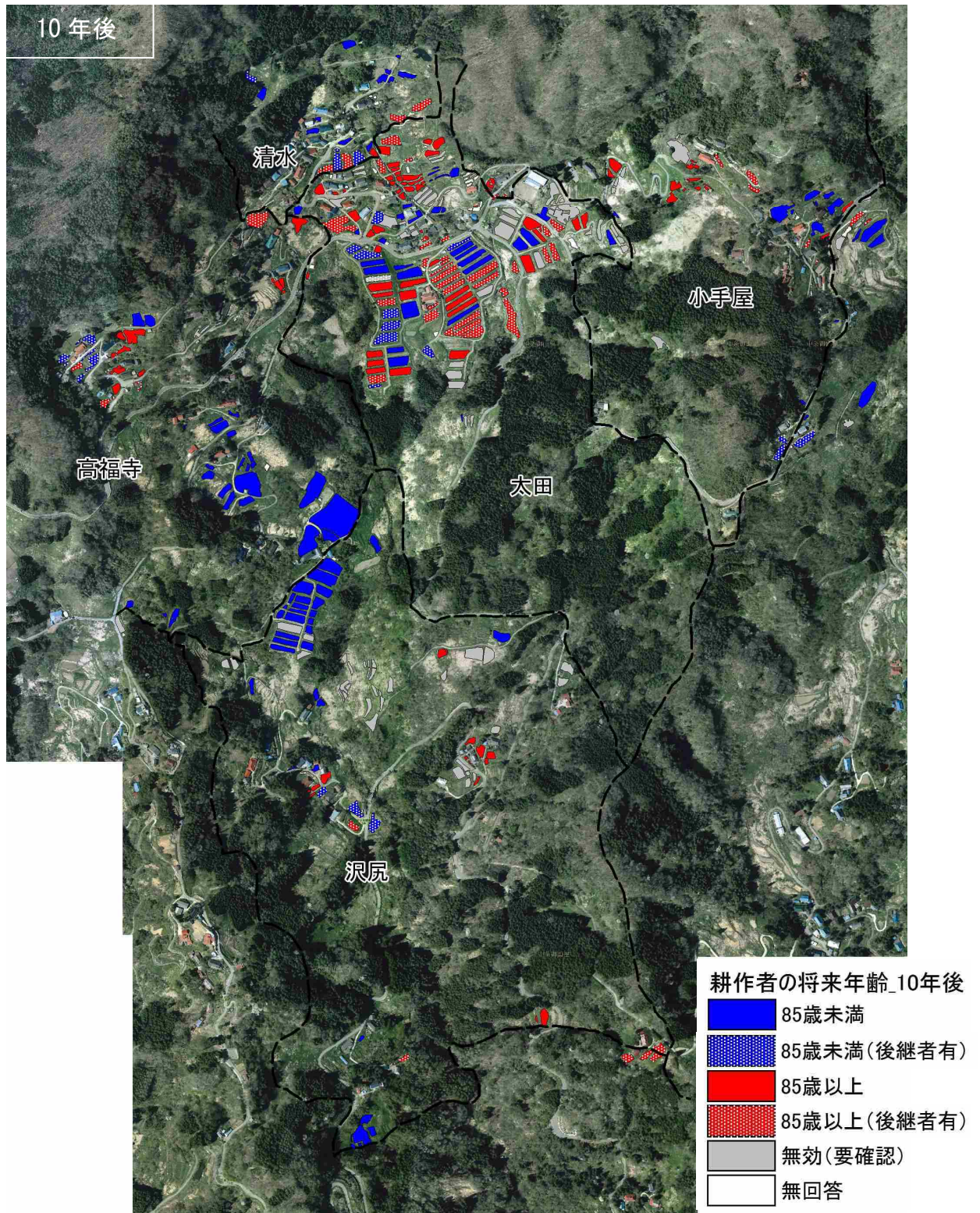
① 農地の現況情報の追加・修正

事前に実施した農地現況調査の情報から作成した農地の現況区分図を見て、400区画以上ある地区内の全農地について、1区画ごとに農地の耕作者の年齢、後継者の有無などの情報を追加・修正を行いました。



図：長野市総合マップ

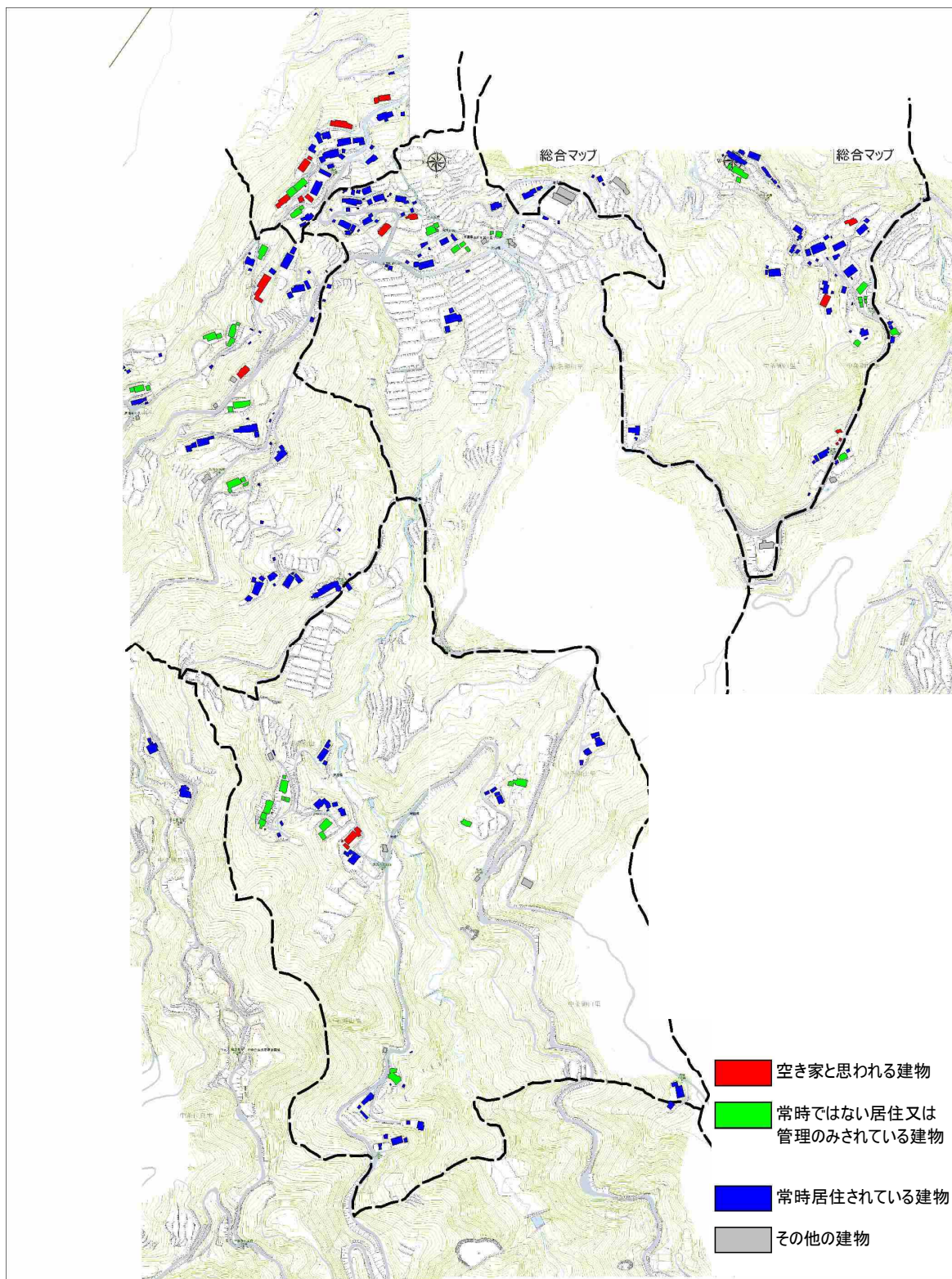
現在の農地の耕作者年齢及び後継者の有無（第1回ワークショップ後更新版）



図：長野市総合マップ
10年後の農地の耕作者年齢及び後継者の有無（第1回ワークショップ後更新版）

② 空き家の現況情報の追加・修正

事前に住宅地図から推定して作成した空き家の現況図の情報の追加・修正をしました。単に空き家かそうではないかだけではなく、常時ではないが居住している人がいる家や、居住者はいないが不定期で管理のみされている家など様々な管理形態があることが見えてきました。



図：長野市総合マップ

空き家の現況（第1回ワークショップ後更新版）

グループ討議その2 “地域の将来を考えてみる”

グループ討議その1で再確認・再点検した図面や過去(40年前)の空中写真を見ながら、森林、農地、宅地などの主な土地利用について、過去の様子やこれまでの変化、現在顕在化している課題や将来の懸念について、各班で意見交換を行いました。

<A班> ワークシート付せんメモ

※表中の番号は72ページの図中の番号と対応

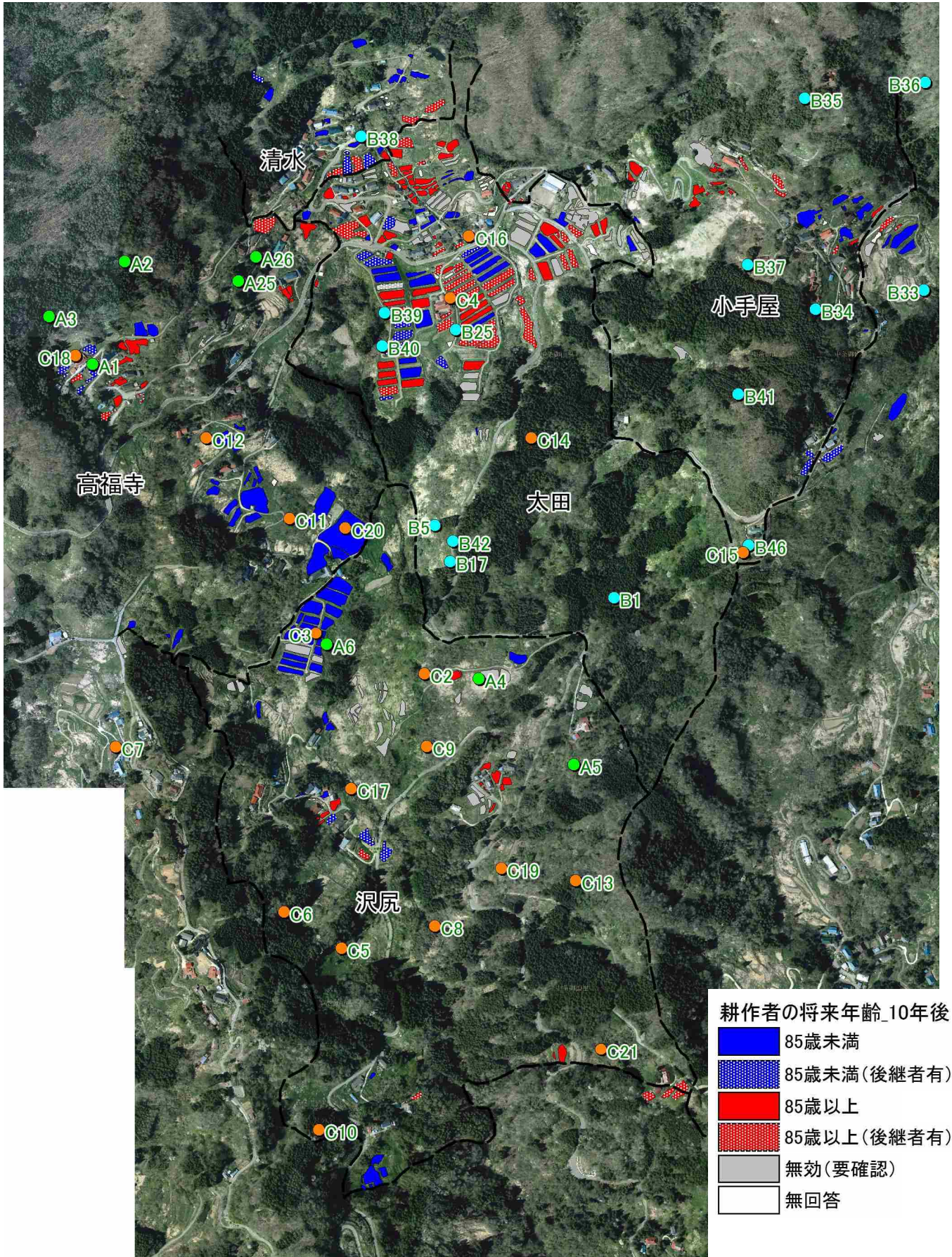
	過去	現在	未来
森林	<ul style="list-style-type: none"> ・周りが全部耕作地で、獣はいなかった。 ・山地に行っても獣がいなかった。山が手入れされていたことが要因。 ・林業の衰退も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植林(50年前) →山を持っている人が手入れをしない。A2 ・畑だったが荒れて獣(イノシシ、タヌキ)が出てくる。A2 ・竹が沢山生えて大変。A3 	
農地	<ul style="list-style-type: none"> ・平らでよい農地。タバコを作っていた。残念 A4 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でやっている。数年後には田畑はできない。A1 ・サクラを植えている。綺麗に管理するモチベーションを保つために植えている。A5 ・隣の農地が荒れて竹が生えると自分の農地に影響が大きい。 ・昔桑畑だったところはヨシが生えて木が生えない。木が生えないため土地が荒れる。スギが植えられた場所はまだまし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田畑が荒れて森林化すると家が囲まれて防犯上心配。 ・田舎で農業をやっている。子どもを育てていくためには、二世帯同居でないと厳しい。 ・田沢沖の棚田は高福寺と沢尻の動線。地域のつながりのために守る必要がある A6 ・増々シカやイノシシが増えて心配。 ・畑を貸すのは全く問題ない。荒らすよりは借りてやってもらってほうがよい。 ・枥倉の棚田は、ほ場整備するときに合意するのに苦労した。そこは将来もなんとか守りたい。
宅地		<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が朽ち果てている。見ていると切なくなる。A25 ・文化財になるような立派な家。もったいない。A25 ・中条に移住したいという人がいても貸し手(売り手)がいない。 ・10年~20年前は閉鎖的だったが、人が減ってきて変わってきた。みんなで頑張ろうという気持ち(オープン化)。高福寺、沢尻は移住者と馴染めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家を貸すのは難しい。壊れた箇所の修理が家主負担では貸す人がいない。 ・田舎の役員などを減らして、移住者の負担を減らさないといけない。

	過去	現在	未来
森林		<ul style="list-style-type: none"> 木が生えたせいで景色が見えなくなって残念。 B5 クマが多く山菜、キノコ採りができない。 B36 	<ul style="list-style-type: none"> 森林が密集しているため人が入りにくいが、間伐すれば美しく見え、山菜採りもできるようになる。 B41
農地	<ul style="list-style-type: none"> この辺はほとんど農地だった。その後スギが植林された。今後の管理は難しい。 B1 昔の田んぼは42、43枚/10a。 	<ul style="list-style-type: none"> 休耕地を早期に対応してほしい。近隣では高齢化で困難。 B25 作業時期が同じなので機械の共有化は難しい。 農業だけで食べていこうとすると1日で今(8h)の3倍働かないといけない。 3~4回/年で草刈り。急斜面のため草刈りが大変。 B25 イノシシに作物を食べ尽くされて、負けてしまいそう。車にいつまで乗れるか(長野市や中条の中心に行けるか) B37 畔の維持は棚田ならではの大変さがある。 販路は直売所で確保できても、作るほうが大変。 太田、中山間地域直接支払制度を3期15年やった。最初は27人でスタート。 オーナー制度は普及していない 猟友会は20人くらい。2万円/匹で1人で34匹捕る人もいる。 美しい棚田がなくなった。 B34 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の棚田が高齢化、後継者不足で荒廃化しているのを見ると、整備すればと。マレットゴルフ場として健康増進・憩いの場として利用できるのではないかと思う。 B33 イノシシの水田被害がひどい。増々増える B40 耕作放棄地が増えると景観が悪くなる。 B39 山手なので機械が入らない。平地より不利。 定年帰農のニーズがあるかも。 “つなぎ”の層が必要。
宅地		<ul style="list-style-type: none"> 旧御山里小学校から見る北アルプスは最高。だが年々木が大きくなり見えにくくなった。 B46 長野市水道局が水を供給しない。 B35 市街との車の行き来が大変。 道路沿道の立木が増えており、集落が見えなくなっている。伐採を。 B17 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の草刈りをする人足が維持できるか心配。 B42 この地に住みたい人が増えるとよい。 未来は若者の移住者が増えるかもしれない。 B38

<C班> ワークシート付せんメモ

※表中の番号は72ページの図中の番号と対応

	過去	現在	未来
森林	<ul style="list-style-type: none"> ・スギを畑に植えた。C13 	<ul style="list-style-type: none"> ・スギの手入れはしていない。C13 ・スギの手入れあり。C14 ・竹やぶがひどい。荒地を浸食している。C21 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹やぶの手が付けられなくなっていく。 ・薪の需要が増えている
農地	<ul style="list-style-type: none"> ・平成の頭くらいまでは棚田。C2 ・昭和62年頃に圃場整備（1ha）C3 ・畑だった（タバコ）→土砂崩れ（昭和50年頃）→ギンナンを植えた。C5 ・田んぼだった。C6 ・平成2年に圃場整備。C4 ・畑だった（梅、野菜）。C9 ・畑だった（タバコ）C10 ・畑だった（その前は田んぼ）。C8 ・果樹園（リンゴ）だった。C11 ・昔は麻も作られていた。 ・乳牛を飼っていた。C12 ・昭和30年代まで農耕馬がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギンナンはたまに拾う程度。C5 ・国勢調査を経て、現況と地図を揃えた。（15年くらい前） ・ほとんどが自家用と直売所C3C4 ・タバコは誰もやっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・野生鳥獣の棲家に。動物園。 ・ハゼ掛けが厳しい。機械化が必要。C3・C4 ・道路沿いにはない農地は管理が困難。 ・観光ワラビ園に。C20 ・山菜に期待。手間がかからない。
宅地	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の位置は変わっていない。 ・40年前に再興（高福寺）C18 ・昭和33年に小学校が廃校。C15 ・水車小屋が40年くらい前まであった。C17 	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地はまとまっていない。皆それぞれ ・ふるさと創生事業で平成元年頃に水車小屋ができた。C16 ・西福寺が現存。老朽化。C19 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増加している。



図：10年後の農地の耕作者年齢及び後継者の有無（第1回ワークショップ後更新版）
各班で出された意見と関係する場所のおおよその位置（69～71ページの表中の番号と対応）

全体を通じてコーディネーターの林先生からのご講評

- 400 個ほどある区画を埋めていくのは無理ではないかと思っていたが、ここは誰でここは誰と
いうようにぼんぼん出てきて、これは都市の感覚とは全く違い非常に高密度な感じで人と土地
が結び付いているということを感じた。
- ワークショップと普通の会合の最大の違いは、ワークショップは参加した人の心に変化が訪れ
るということ。おそらく皆さんの心の中に思考の変化がわずかでも現れたのではないかと思う。
- 今日の効果がじりじりとジャブのように効いてきて、この地域が明るい方向に思考を展開でき
るようになるのではないかと思った。

第2回ワークショップ開催概要

- 会議名 第2回伊折地区の将来の地域づくり（土地利用）を考えるワークショップ
- 日時 2019年2月10日（日）13時30分～16時45分
- 場所 伊折区太田公民館
- 出席者 参加者：16名（地区住民）
傍聴：1名、報道：1名
コーディネーター：林准教授（金沢大学）
事務局
国土交通省：栗林課長補佐、
佐藤専門調査官、吉澤専門調査官
長野市企画課：小林主査
長野市中条支所：想田支所長、久保田係長、大内主査
中条村住民自治協議会：大日方事務局長
委託業者：KRC 小林室長



参加状況



林先生の講義



グループ討議



リレー報告

■説明・講義概要（会議の主な記録）

事務局からの説明 ～悪影響を踏まえた土地の管理のあり方～

- 既に放棄されていて今更活用することは難しい土地や、ぎりぎり維持しているが今後維持していくのは難しい土地などはたくさんあると思っている。
- どのくらいの地域の土地が将来的に放置されていくと想定されるのか、放置されることで悪影響は生じるのか、悪影響は無視できるレベルなのか、といったことを考えながら、地域全体の土地利用を考えていくことが必要ではないかと国交省では考えている。

林先生の講義 ～戦略的な将来の地域計画の立て方～

- 子供や孫の世代まで入れた長い時間スケールでむらづくりを考えたとき、戦略的に考えることが必要となる。
- 戦略的に考えるとは、先のことは分からないという前提で考え、複数のゴールと採用条件を設定しておくということ。次善策や、非常に厳しい状況でなんとかするための保険的な選択肢が非常に重要となる。
- 戦略的に考えるためには、まず物事に優先順位を付け、譲れないラインを明確にし、いくつかの青写真を描いていくことが重要。

グループ討議その1

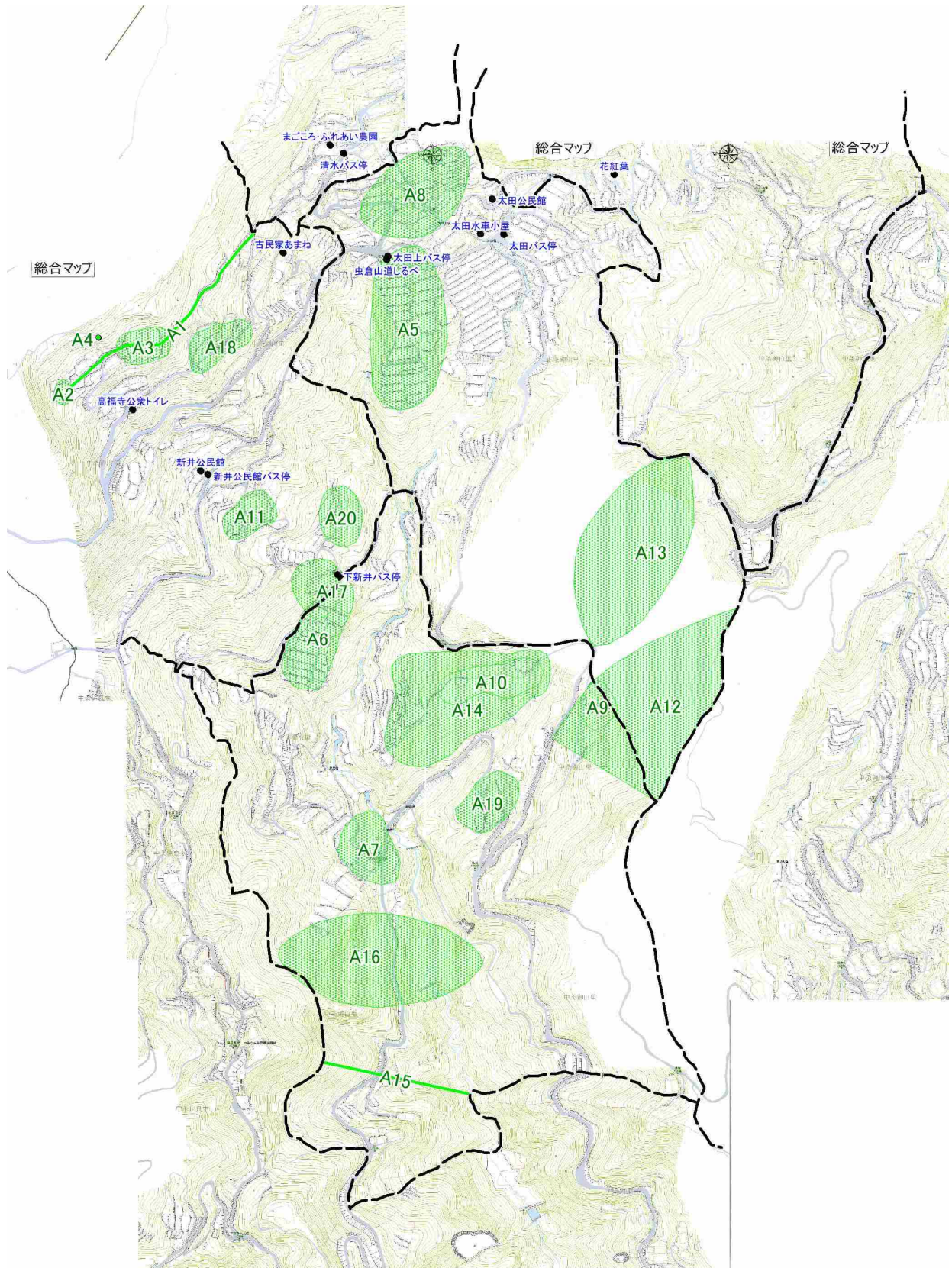
” 地域で従来どおりの方法で管理していくところ（エリア）は何（どこ）か？” ≒ 地域の維持に必要なもの（エリア）

これまでに収集・整理してきた森林、農地、宅地に関する各種情報と、空中写真、ハザードマップを重ね合わせた図面を見ながら、地域で従来どおりの方法で管理していくところ（エリア）を地図上で把握し、それを守りたい理由や守る上での課題などの意見を出し合い、整理・共有しました。

< A班 > ワークシートその1付せんメモ

※表中の番号は77ページの図中の番号と対応

どこを？ (地図に番号)	どこを放置したくないか？	放置しないための課題	
		現在生じている課題	将来的に生じる課題
従来どおりの方法で管理していきたい	<ul style="list-style-type: none"> ・眺めが良い。観光のためにも、道路を維持したい。 A1 ・観音様がいる。あわせて道も守りたい。 A2 ・有名で駐車場もあって、観光資源。地域で守ってきた。トイレ設置のために桑畑の土地も手放した。 A2 ・見晴らしがよいため見晴らし台として活用したい。 A3 ・登山道であり、観光資源。 A4 ・栃倉の棚田。 A5 ・ A5 は地域の象徴、景観がよく写真を撮りにくる人も大勢いる。 A5 	<ul style="list-style-type: none"> ・5人でやっている。この人数だけだと、将来的には厳しい。 A5 ・新しい担い手を増やさないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後には1軒になる可能性。 A6 ・20年後には1軒になる可能性。 A7 ・バッドシナリオ：沢尻は20年後には2軒になる可能性。 ・2軒だと A6 だけでも守るのは難しい。販売ルートがあればまだ可能性があるが、自家消費分だと厳しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・清水の集落を居住の中心としたい。 A8 ・田沢沖の棚田。 A6 ・ A6 は優先度No.1。生活基盤でもあり A2 より重要。 A6 ・機械化で平らな良い農地。 A7 ・平らで機械が入れる良い土地。 A9、A10、A11 	<ul style="list-style-type: none"> ・農協に出すのは手間がかかるうえに儲からない。安い。 ・販路があれば、どれだけでも作りたいという人もいる。→ どれだけ、はぜかけ米のおいしい米を売り出せるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年後、20年後に A5 と A6 だけを守るとしても人手が足りない。 ・棚田は草刈りが大変。人手がいる。 ・外から、縁者も含めて、担い手を増やす必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の農地は、残せれば残したい。 ・借地でやっている人は、米を出荷している。 ・自分の農地でやっている人は、自家消費がメイン。 ・管理されている森林。管理している山には獣は少ない。 A12、A13 ・ただし他から来るので畑には獣が来る。 A12、A13 ・放牧適地。新たな管理としてヤギやヒツジの放牧地とすれば、観光の目玉になる可能性が。 A14 		
あきらめる	<ul style="list-style-type: none"> ・機械も入らない。 A15 ・今の耕作者が終われば・・・。 A15 ・誰かいれば。 A15 ・守りたいに含まれない場所は、機械化が難しい。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・20年前くらいにがけ崩れが起きた。 A16 ・家のすぐそばまで土砂が崩れた。 A17 		



※図中の番号は76ページの表中の番号と対応

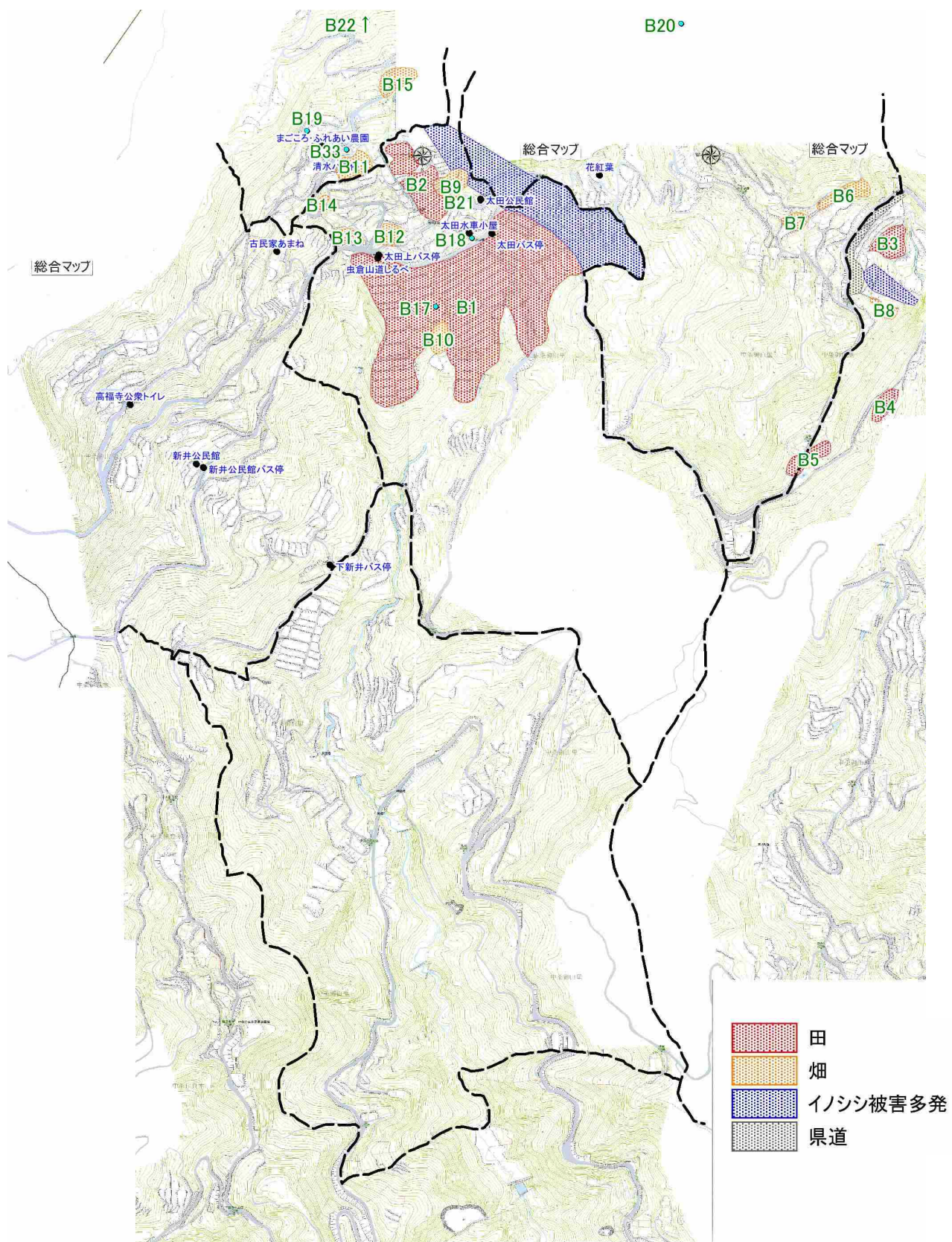
図：長野市総合マップ

A班まとめ

<B班> ワークシートその1付せんメモ

※表中の番号は79ページの図中の番号と対応

どこを？ (地図に番号)	どこを放置したくないか？	放置しないための課題	
		現在生じている課題	将来的に生じる課題
B1~B5	<ul style="list-style-type: none"> 田んぼとして守りたい農地。仮に田んぼとしての維持が困難であれば、他の作物を耕作したい。B1~B5 景観上大事。棚田100選。B1 ご先祖様から引き継いだ土地だから。B1~B5 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシによる踏み荒らし。 電気柵をしている農地は大丈夫だが、個人単位に留まり、エリア全体では未対応。 電気柵をしていない農地がやられる。 小作が来てくれない。(もっと下にも荒農地がある) 田は畑より面積が大きいという違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 後継者がいない農地が増える。
B6~B15	<ul style="list-style-type: none"> 畑として守りたい農地。B6~B15 ご先祖様から引き継いだ土地だから。B6~B15 	<ul style="list-style-type: none"> イノシシによる踏み荒らし。 電気柵をしている農地は大丈夫だが、個人単位に留まり、エリア全体では未対応。 電気柵をしていない農地がやられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 守れなければ小作に出すしかない。
B17	<ul style="list-style-type: none"> 赤い屋根の住宅。長野市景観賞受賞。B17 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を売買するのに相続不明確の問題あり。←空き家のまま放置される理由。 みんな売ってくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 跡継ぎもいるので大丈夫。 GM (Genetically Modified) 作物禁止ゾーン(地域)にする。(未然防止) ※GM: 遺伝子組み換え
B18	<ul style="list-style-type: none"> 水車小屋→回しているだけで使っていない。 市が管理してくれている。地域は日常管理。 		
B19~B21	<ul style="list-style-type: none"> お堂-年2回お祭。B19 虫倉神社。B20 公民館。B21 地域の人が集まる。B21 		<ul style="list-style-type: none"> 虫倉山全体の登山道の草刈りについて人手が足りない。
B22	<ul style="list-style-type: none"> 川: サンショウウオの生育地であり、水源地。 		



※図中の番号は 78、82 ページの表中の番号と対応

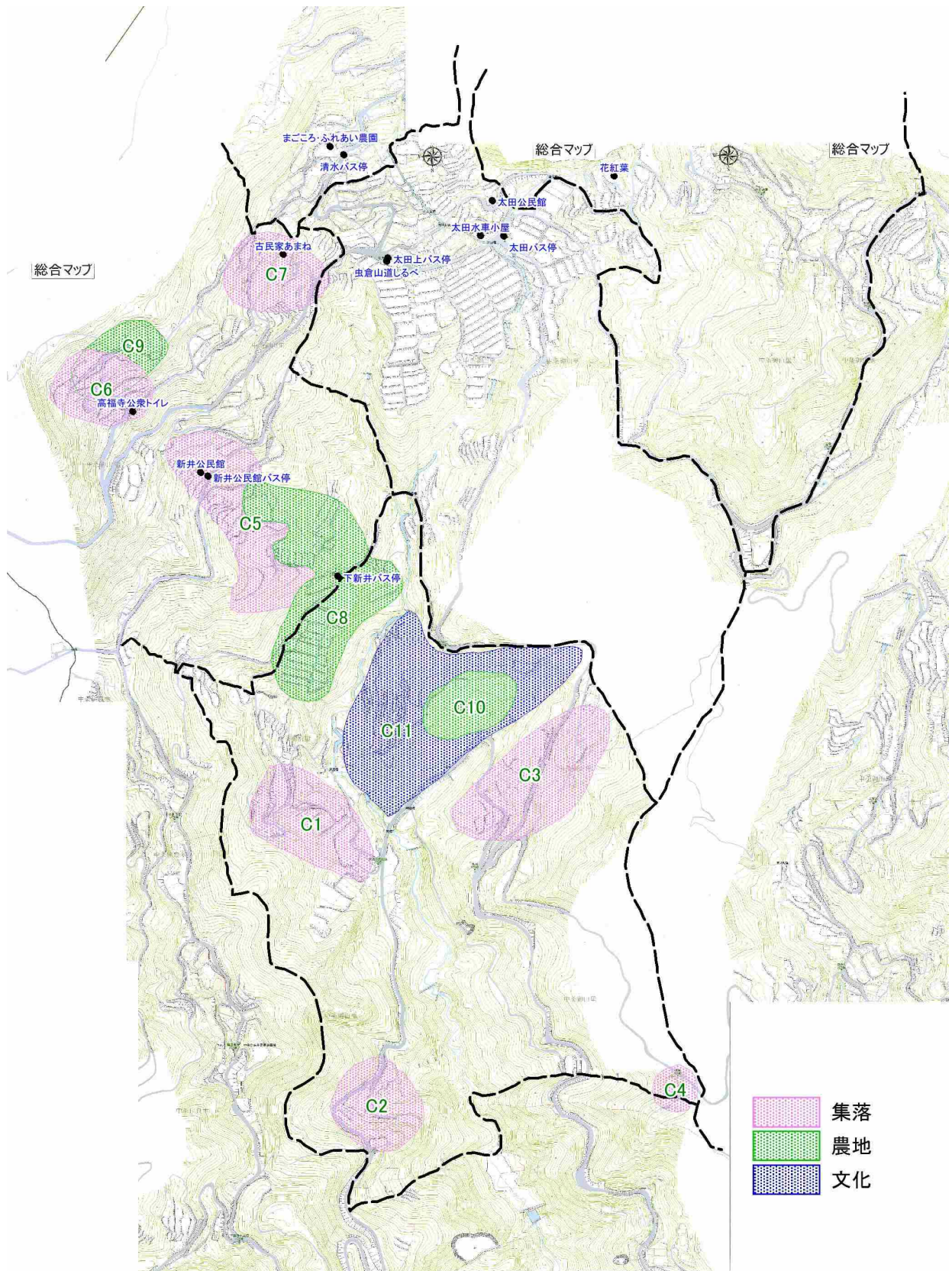
図：長野市総合マップ

B班まとめ

<C班> ワークシートその1付せんメモ

※表中の番号は81ページの図中の番号と対応

どこを？ (地図に番号)	どこを放置したくないか？	放置しないための課題	
		現在生じている課題	将来的に生じる課題
C1~C7	<ul style="list-style-type: none"> ・集落を守りたい。C1~C7 	<ul style="list-style-type: none"> ・8戸が4戸に。高齢化。うち3戸はまだ居住可。うち1戸は復元可。C1 ・8戸が3戸に。5戸のうち1戸はすぐにも住める。残りは崩壊。C2 ・5戸が1戸に。4戸のうち3戸は管理されている。1戸は崩壊。C3 ・2戸が1戸に。1戸は30年前からない。C4 ・12戸が5戸に。+Iターンで6戸に。(4月から) C5 ・5戸が4戸に。小学生1、中学生1の家あり。C6 ・7戸が3戸に。Iターン1戸。C7 ・1戸は自治会未加入。C7 ・Iターン者に売った人は割り切って仏壇、墓を移転した。C1~C7 ・いざ売ろうとするときの登記の整理が手間。C1~C7 ・長野市の空き家バンクは使いづらい。完璧を求めすぎる。未登記のものは認めない。C1~C7 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃村の可能性大きい。C1~C7 ・Iターンがどれだけ入ってくるか。C1~C7 ・お盆等に帰ってくる人は売らないだろうが、管理できず売ってもいいという人の方が多いと思われる。C1~C7 ・空き家を世話してくれる人や、相談を受ける人が必要。C1~C7
C8~C10	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を守りたい。C8、C9 ・動線確保。C8 ・鳥獣対策。C8、C9 ・ほ場整備したから。C8 ・集落を守るため。C9 ・復元可能な農地。やめて5年くらい。C10 ・畑地として。C10 ・放牧もやりうる。(青線部分) C10 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作者減少。C8 ・棚田を6戸でやっていたが、今は4戸。C8 ・畦畔の草刈り、収穫が大変。C8 ・ほとんど一人がやっている。後継者がいない。C8 ・地域との関わりがうすい子ども世代は、土地の場所がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農が必要。C8 ・コンバインの導入。C8 ・畦畔の草刈りの軽減。(畦畔グリーンを植えるとよいのでは?) C8



※図中の番号は 80 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ

C班まとめ

グループ討議その2

“従来どおりの方法で管理できない場合に生じる問題は？”

B班、C班では、地域で従来どおり管理していきたい場所（エリア）が放置された場合に生じる問題（悪影響）等についても少し意見を出し合いました。

<B班> ワークシートその2付せんメモ

※表中の番号は79ページの図中の番号と対応

どこを？ 地図番号		従来どおりの方法で管理できない場合に生じる問題（悪影響）		
		個人で	周辺・地域で	広域で（下流域など）
棚田 B1	短期的 問題	・景観が悪くなる。	・地域のシンボルが耕作できなくなるのはさみしく、 <u>伊折地区に住む意味すら失う</u>	
	長期的 問題		・地域のシンボルが耕作できなくなるのはさみしい。	・土砂災害が起きやすくなる。
農地全般	短期的 問題	・景観が悪くなる。 ・イノシシが増える。	・田がなくなると畑が維持できない。（水路） ・移住者の魅力減。（景観、家の荒廃）	
	長期的 問題		・田がなくなると畑が維持できない。（水路） ・移住者の魅力減。（景観、家の荒廃）	
林地	短期的 問題			・スギの管理放棄で土砂崩れが懸念。
	長期的 問題			
空き家	短期的 問題	・カモシカの住み着いた家。B33		
	長期的 問題			

<C班> ワークシートその2付せんメモ

どこを？ 地図番号		従来どおりの方法で管理できない場合に生じる問題（悪影響）		
		個人で	周辺・地域で	広域で（下流域など）
全体	短期的 問題		・道路、水道、電気の確保。 ・現在は集落で、草刈りで道路を守っている。 ・一番大事なのは道路。 ・道路周辺の草刈りの人不足を、出身者が補っている。 ・1.5倍くらいの人になる。 ・出身者の子どもは来ない。	
	長期的 問題		・将来的に水道、電気が来なくなることもあるのでは？	

全体を通じてコーディネーターの林先生からのご講評

- 非常に密度の高いディスカッションを見ることができ、非常に嬉しく思う。新時代の本当に必要とされているワークショップの話し合いだと感動している。
- バットシナリオと向き合うことは心が折れるが、この話ができただこと自体がこの地区の宝物。どこを優先するかということは、どこを諦めるかということと同じ。優先順位をつけるのは辛い作業。
- 地域のシンボルという言葉が出てきたことは素晴らしい。これは究極的にこの地区とは何かということに繋がってくる。見た目ではなく、精神的な部分が残ることが地域にとって生き残ることの本質。
- 集まる場所が大切だということも重要なキーワード。以前別の集落で、祭りのような集まる場が定期的に確保されていれば、他は多少集落の姿が変わっても対応できるという話を聞いたことがある。
- 長期的な視点で大切なのは当面のつなぎ。そういう面でも、空き家について長期的な視点が維持されて議論されたことが素晴らしい。
- 省力化できるところはどんどん楽ができるよう技術的にも進めていくべき。
- 離村した人の子どもの世代である離村二世をどう取り込むかが重要な課題。私も正直研究中だが、子供時代に楽しい思い出をつくるという単純で原始的なことが大切だということが見えてきた。

第3回ワークショップ開催概要

- 会議名 第3回伊折地区の将来の地域づくり（土地利用）を考えるワークショップ
- 日時 2019年3月10日（日）13時30分～16時30分
- 場所 伊折区太田公民館
- 出席者 参加者：15名（地区住民）
傍聴：1名、報道：1名
コーディネーター：林准教授（金沢大学）
事務局
国土交通省：栗林課長補佐、
佐藤専門調査官、相村専門調査官、中間係長
長野市企画課：小林主査
長野市中条支所：久保田係長
中条地区住民自治協議会：大日方事務局長
委託業者：KRC 小林室長



参加状況



グループ討議



グループ討議で作成した図面



リレー報告

■会議概要（会議の主な記録）

事務局からの説明 ～ワークショップ（第3回）の進め方～

- 本日の討議では、第2回ワークショップで議論した「引き続き従来どおりの方法で管理していくところ」【青の土地】と、それ以外の「放置による悪影響の防止のために新たな方法で管理しておくところ」【黄色の土地】と、「使い道もなく、放っておいても誰にも迷惑がかからないので放置していくところ」【緑の土地】の3種類で、伊折地区の土地利用の全体の考え方を整理する。
- その上で、全体土地利用の考え方に基づき、将来像の実現に向けて具体的に実行する取り組みやその主体、手法、資金、仕組などの議論までは行き着けないが、もし可能であれば、4月以降に継続してワークショップを開催し、そうした議論を行えればと考えている。

グループ討議①

“将来的に維持できない場所について考える”

第2回ワークショップの討議で班ごとに作成した「引き続き従来どおりの方法で管理していくところ」の図をベースに、それ以外の土地についての方向性を検討しました。

従来どおりの方法で管理していくところ以外は全て放置で本当に問題（悪影響）はないか（従来どおりの方法で管理していくところへの獣害の拡大可能性や新たな担い手のための空き家の確保など）を考え、問題がある場合は、どのように管理すべきか意見を出し合いました。

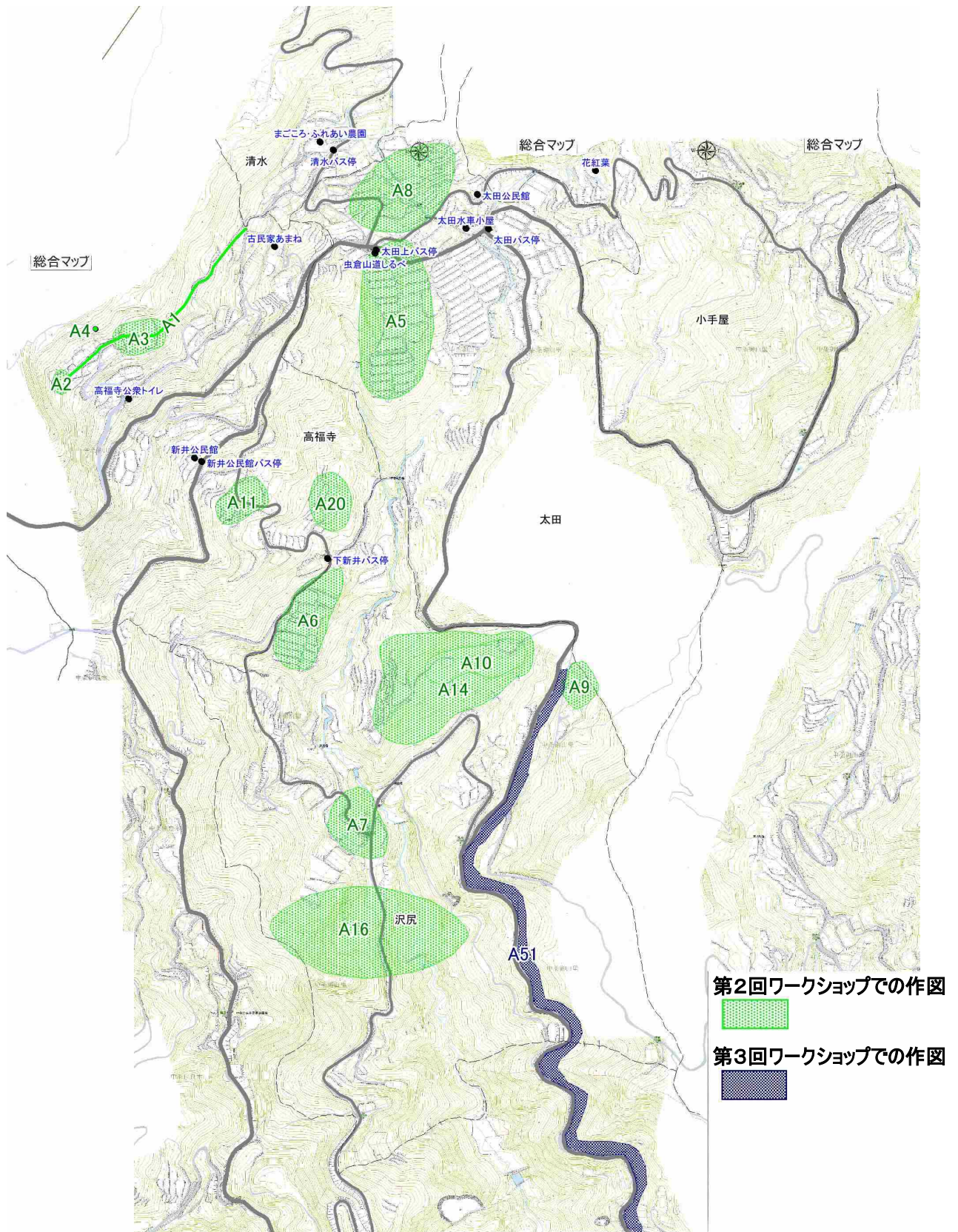
<A班> 討議①ワークシート付せんメモ

※番号は87ページの図中の番号と対応

	「従来どおりの方法で管理していくところ」以外の土地を放置した場合に生じる悪影響	悪影響の抑制のための管理方法・方策
森林	<ul style="list-style-type: none"> ・道路沿いは守っていききたい（サクラ）(A51) ・いい土地。ギンナンが植えてある。少し草を刈れば再生する(A16) ・今まで見えていた所が現在見えていない。寂しい気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒れているから草を刈るとはならない。何かを植えていれば刈るが ・荒れて影響がでない家はない
農地	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラを植えると人が来る可能性(A14) ・平らの一等地（沢尻）。長野から通い耕作していたが、今年から来なくなった（荒れている）(A7) ・山菜畑(A20) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくら荒れていても他人の土地まで管理しにくい。了解があれば別だが
宅地等	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地は管理するが空き家までは管理しきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いで管理されている空き家は多い ・日曜日だけ住んでいる人は管理できている。住人でなくても最低年1回草刈りをすれば何とかなる ・空き家所有者も連絡すれば了解してくれると思う ・遠くに住んでいる（東京）人の空き家を維持管理する委託みたいなものがあればよい ・空き家は個人の持ち物であるから、他人が管理するのは難しい ・空き家を売却することに抵抗がある。先祖への思いがある。

（参考）従来どおりの方法で管理していくところ（エリア）として出された意見

- ・眺めが良い。観光のためにも、道路を維持したい**(A1)**
- ・観音様がいる。あわせて道も守りたい**(A2)**
- ・見晴らしがよい。活用したい**(A3)**
- ・登山道であり、観光資源**(A4)**
- ・枋倉の棚田**(A5)**、田沢沖の棚田**(A6)**、農地**(A7,A9~A11)**
- ・集落**(A8)**



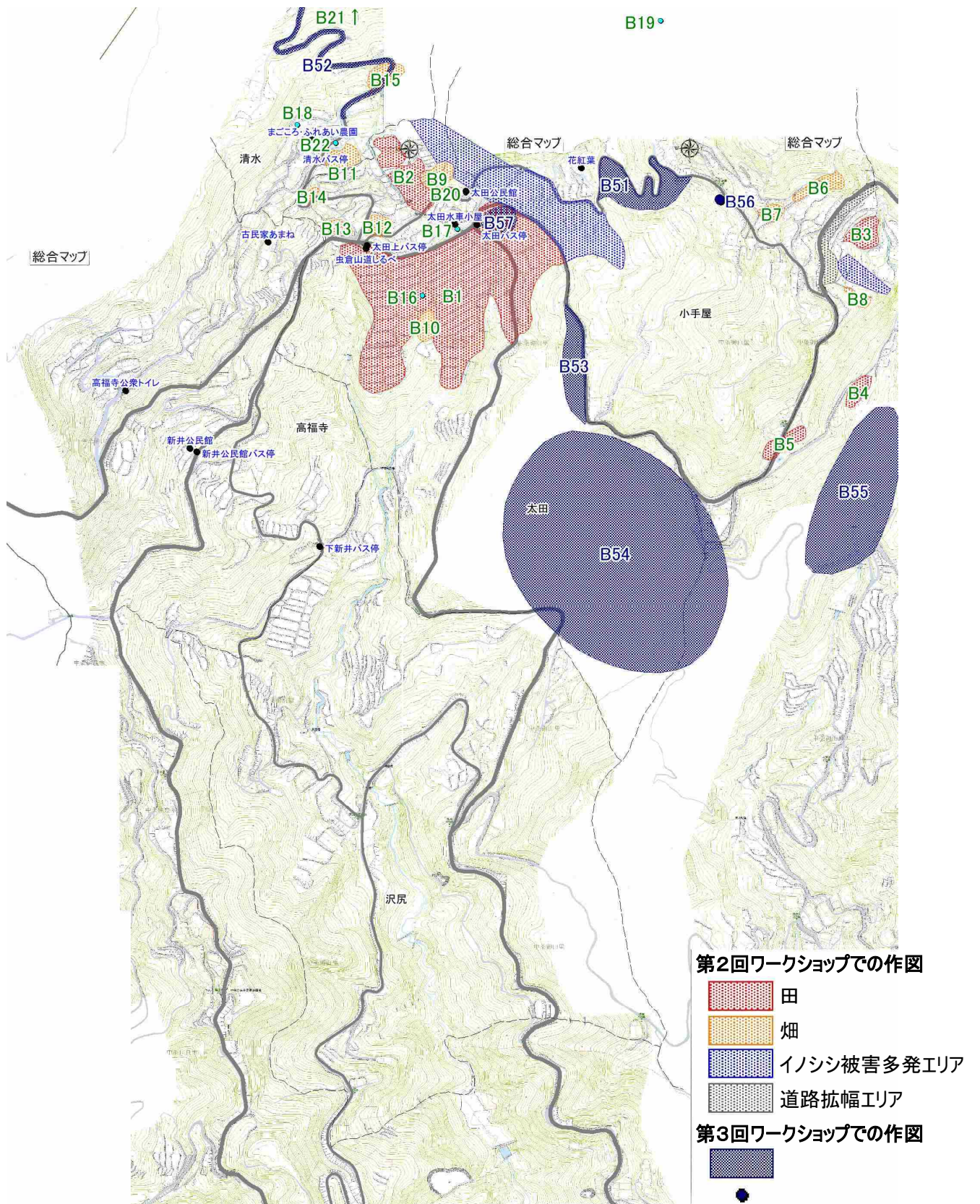
※図中の番号は 86 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ、第2回 WS で作成した図面（関連情報一部表示）
 討議① A班まとめ

	「従来どおりの方法で管理していくところ」以外の土地を放置した場合に生じる悪影響	悪影響の抑制のための管理方法・方策
森林	<ul style="list-style-type: none"> ・スギが眺望を阻害している（山並み、雲海）。スカイラインにする（B53） ・ビューポイント。北アルプス（針ノ木）と雲海（B51,56） ・雲海がすばらしい（B54） ・伊折のサクラやケヤキはきれいに紅葉しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫倉山の登山者向けにサクラ等を植える。広葉樹（B52） ・雑木が大きくなる前に切ってもら ・クマを寄せ付けない対策としてクマの餌になるもの（ナラの木）を伐る
農地	<ul style="list-style-type: none"> ・レンゲ畑の構想はよいがレンゲも花も咲かない状況（B57） ・荒れ果てた棚田（B55） ・耕す人がいる間だけ守れるがいなくなると厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りの代わりに放牧（ヤギやヒツジ） ・守るべき場所以外の電柵は全体よりも個別対応のほうがコスパがよい ・人手がかかるものは嫌がる。人手をかけないものがあればよいが→山菜（ワラビ）の畑を作る（例）道路沿い管理は草刈りくらいなら ・ここでしかできない作物をつくる ・沿道にサクラを植える（農地を諦め景観に注力する）（B51）
宅地等	<ul style="list-style-type: none"> ・カモシカの住み着いた家（B22） 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家への移住希望者は 50 代以下が 7 割 ・空き家をなかなか売ってくれない（良い状態のときに売ればよいが） ・移住者が必要→空き家がある→売らない ・住んでくれる人を増やさないとだめ

（参考）従来どおりの方法で管理していくところ（エリア）として出された意見

- ・ 田んぼとして守りたい農地(B1~5)
- ・ 畑として守りたい農地(B6~15)
- ・ 赤い屋根の住宅。長野市景観賞受賞(B16)
- ・ 水車小屋(B17)
- ・ お堂(B18)
- ・ 虫倉神社(B19)
- ・ 公民館(B20)
- ・ 川：サンショウウオの生育地であり、水源地(B21)



※図中の番号は 88 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ、第2回 WS で作成した図面（関連情報一部表示）
 討議① B班まとめ

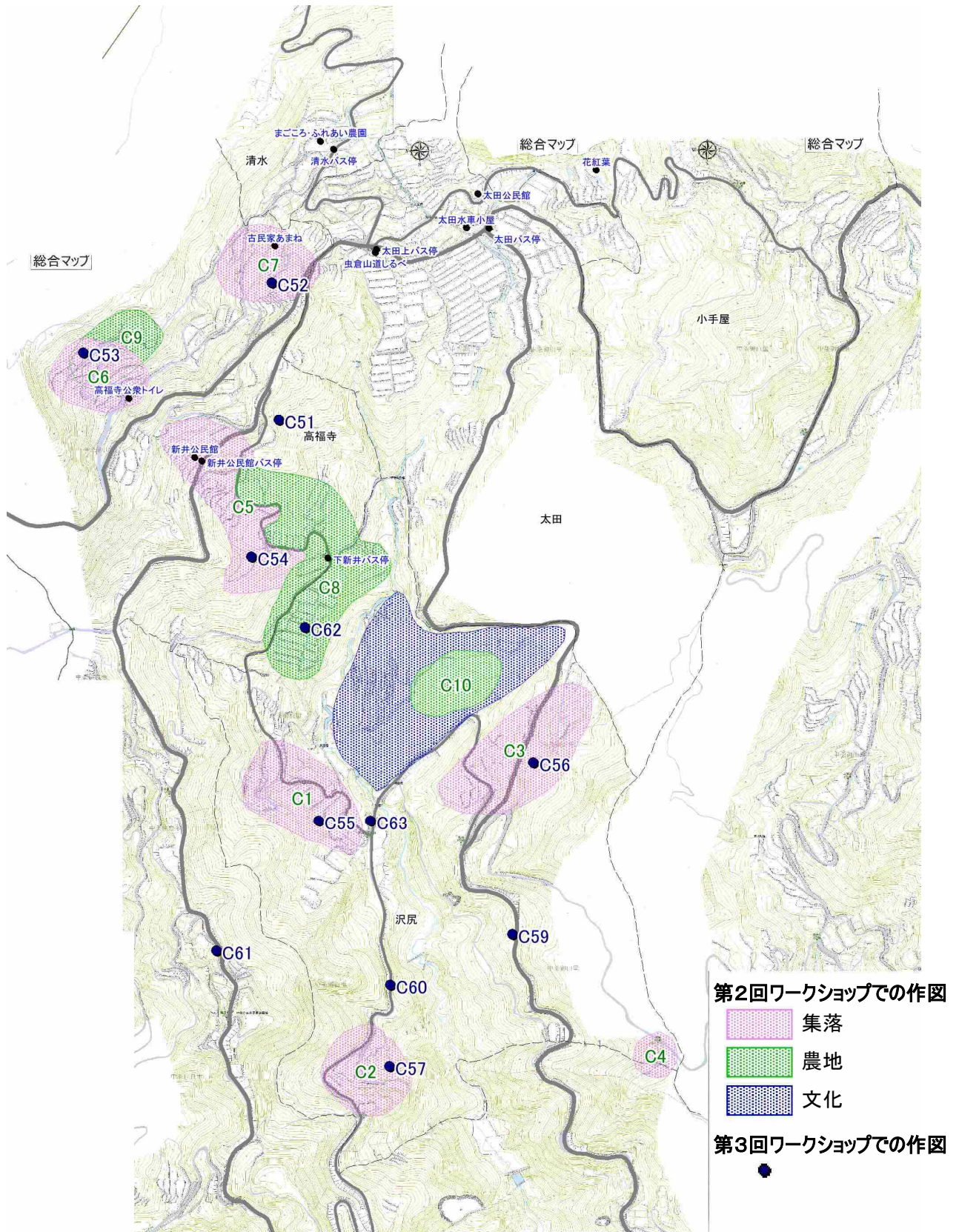
<C班> 討議①ワークシート付せんメモ

※番号は91ページの図中の番号と対応

	「従来どおりの方法で管理していくところ」 以外の土地を放置した場合に生じる悪影響	悪影響の抑制のための 管理方法・方策
森林	<ul style="list-style-type: none"> 木があると光が差さないため凍結防止に木を伐っている場所がある 景観のためだけにスギの支障木は伐れない。 	<ul style="list-style-type: none"> お金になるなら伐るかも
農地	<ul style="list-style-type: none"> 沢尻に住む人がいなくなれば田沢沖の棚田を動線として守る理由はなくなる (C62) 	<ul style="list-style-type: none"> 今荒れているところは手のほどこしようがない。電気柵で囲ったほうが手っ取り早い
宅地等	<ul style="list-style-type: none"> 景観のよい空き家は売れる可能性。沢尻側は谷間で景観が悪い (C51) I ターンがいる。いずれも景観がよい場所 (C52,53,54) 空き家が今は維持されているが厳しい (C55,56,57) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢の親がいること、土地への思い入れが地域外の人が管理に来る条件 空き家を集落単位で管理していくのは難しい 空き家を守るには月1回は管理必要。戸を開けて換気。雪はそうでもない。それよりも草刈り
	<ul style="list-style-type: none"> 家を守るための草刈りが大変。畑をやめたら一気にやられる 竹やぶにすぐにやられる (空き家も) 	<ul style="list-style-type: none"> 家周りの草刈りとして10aくらいは必要 草刈りは3回やれば十分。6月、7月、8月に1回ずつ メインの幹線道路・準幹線道路の草刈りを年3回50人程度でやっている (C59,60,61) 居住者が少なくなると周りの草刈りが厳しい。出身者の応援が必要 高齢者一人暮らしだと周囲の子どもなどが草刈りなどで支えないと厳しい
	<ul style="list-style-type: none"> 集会所。沢尻地区の人が集まる場 (C63) 	

(参考) 従来どおりの方法で管理していくところ (エリア) として出された意見

- ・集落 (C1~7)
- ・農地 (C8,9)
- ・復元可能な農地 (C10)



※図中の番号は 90 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ、第2回 WS で作成した図面（関連情報一部表示）
 討議① C班まとめ

グループ討議②

“地域全体の土地利用の方向性を決めよう”

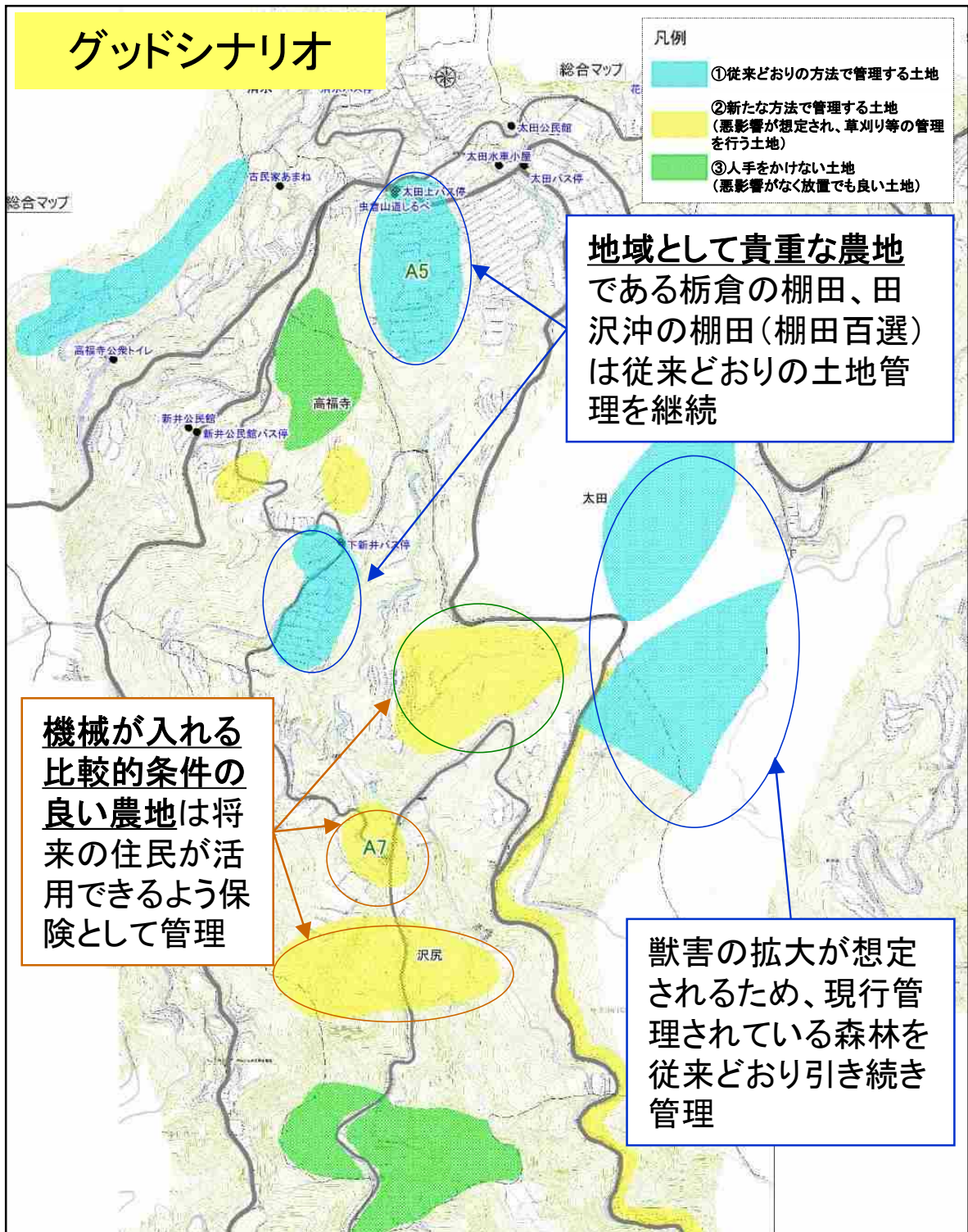
グループ討議①での討議内容を踏まえて、将来的に(1)従来どおりの方法で管理する場所(青)、(2)新たな方法で管理する(黄色)、(3)人手をかけない(放置の)場所(緑)の3つの区分で伊折地区全体のゾーニング(3色で色分け)を行いました。

各班それぞれに条件設定で、新たな担い手が確保されることを念頭においたシナリオ(グッドシナリオ)と現時点で確実に想定される担い手だけを前提とした(バッドシナリオ)を地図に描きました。

<A班> 討議②ワークシート付せんメモ

※表中の番号は93、94ページの図中の番号と対応

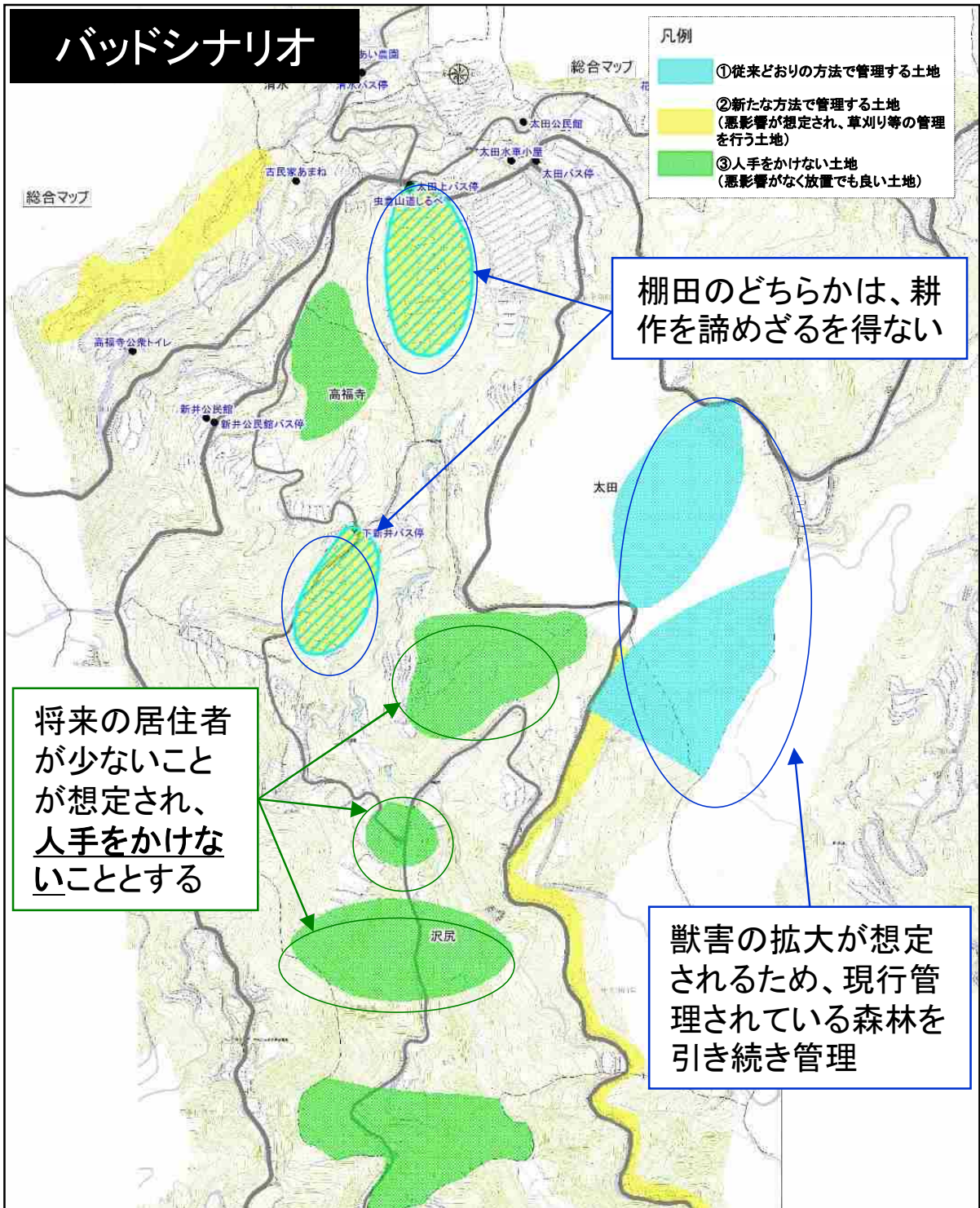
方針	グッドシナリオの意見	バッドシナリオの意見
従来どおりの方法で管理する土地	<ul style="list-style-type: none"> ・支援がなければグッドのシナリオの世帯数でも農地を維持するのは厳しい。機械化しても管理が厳しい ・グッドでも青の維持も厳しい 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんが管理している。息子が継ぐ可能性が高い (A5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・栃倉の棚田は〇〇さんがいなければ厳しい ・バッドシナリオの場合、守りたい農地も1箇所にしぼるしかない
	<ul style="list-style-type: none"> ・グッド(沢尻:7世帯)子ども、(高福寺:9世帯)移住者等 	<ul style="list-style-type: none"> ・バッド(沢尻:5世帯)、(高福寺:7世帯)沢尻は10年後5世帯減る
新たな方法で管理する土地	<ul style="list-style-type: none"> ・グッドでも黄色の管理はかなり厳しい。公的な支援が必要 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・耕作する面積を減らしても草刈りぐらいはしている ・一時的な手数が入れれば高齢者だけでも管理は可能。草刈りは高齢者だけでも対応は可能 ・市道の草刈りも厳しい(グッドでもできないかもしれない) ・道路沿いは集落で草刈りをしている(年2回:草刈り)泥上げあり:年3回対応 ・年をとっても草刈りや水管理や作物を作るのはできる。畑や田を起こしてくれれば、広い場所でもやれるはず (A7)
人手をかけない(放置の)土地	<ul style="list-style-type: none"> ・支援がなければグッドのシナリオの世帯数だけでも農地を維持するのは厳しい。機械化しても管理が厳しい ・グッドでも青の維持も厳しい 	



まだ決まっていない子供世代のUターンや移住者などを見込んだ想定(10年後: 沢尻地区7世帯、高福寺地区9世帯)

※図中の番号は 92 ページの表中の番号と対応

図: 長野市総合マップ



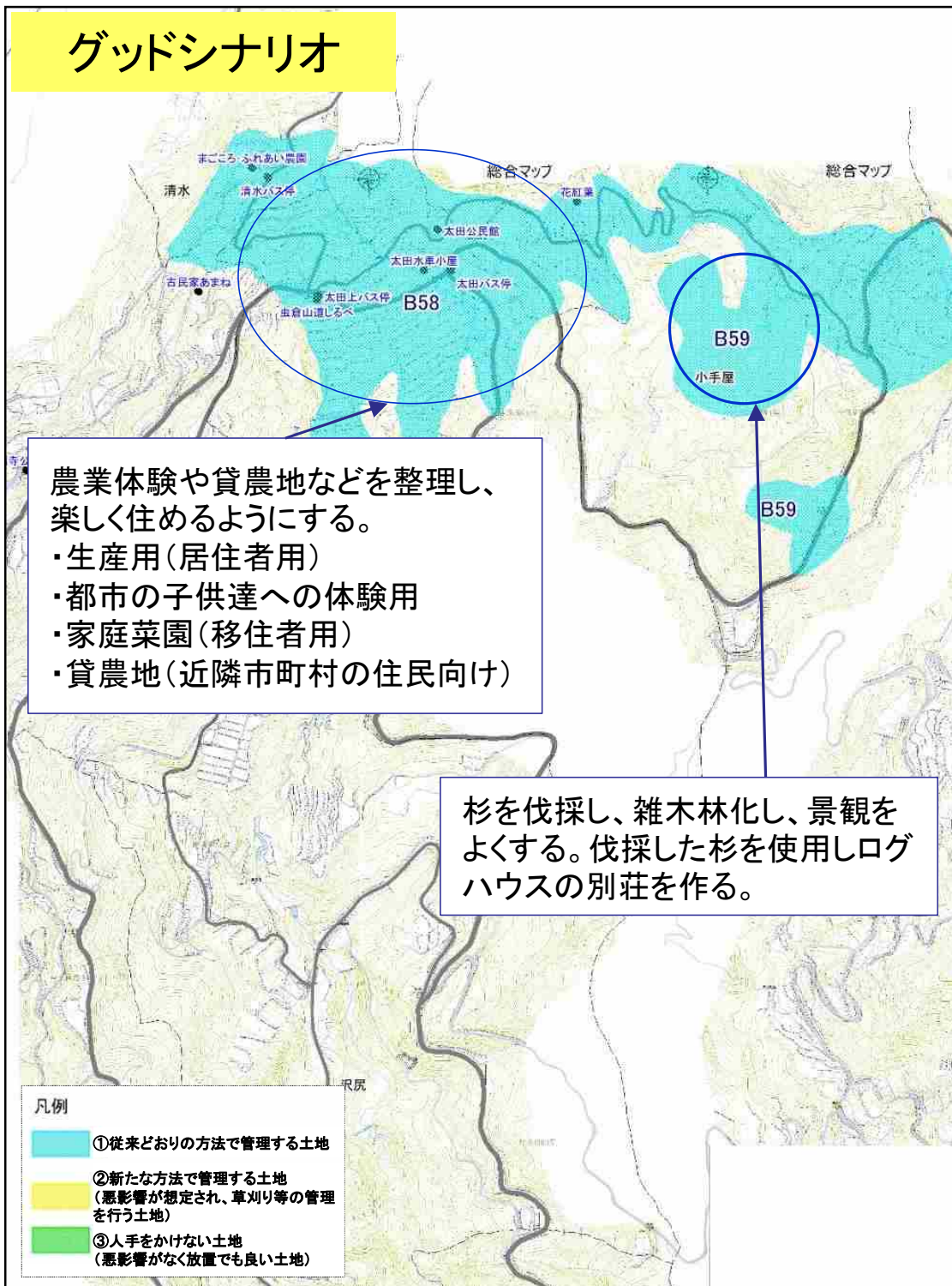
移住者ゼロ、決まっていない子供世帯のUターンもゼロを想定(10年後: 沢尻地区5世帯、高福寺地区7世帯)

※図中の番号は 92 ページの表中の番号と対応

図: 長野市総合マップ

方針	グッドシナリオの意見	バッドシナリオの意見
従来どおりの方法で管理する土地	<ul style="list-style-type: none"> ・農業（生産）、農業体験（都市の子どもたち）、家庭菜園（移住者用）、貸農地（近隣市町村の住民向け）（B58） ・よい景観を生かして、杉を伐採し雑木林化にして別荘に（B59） ・きれいな水と野菜で農家レストラン（古民家レストラン） ・条件：若い人（縁者、移住者）やよそ者がどんどん中条に住む 	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼとして守る（ただし虫食いの維持管理だけの農地は生じている）（B60）
新たな方法で管理する土地		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園的に維持できる農地だけ残す。または草刈りレベルかも（B61）
人手をかけない（放置の）土地		<ul style="list-style-type: none"> ・放置でもよいというより放置せざるをえない（ただし部分的に管理の手間のかかりにくいワラビ栽培はあり）（B63） ・水がないところでイノシシが出ないから放置でもよい（B62）

グッドシナリオ



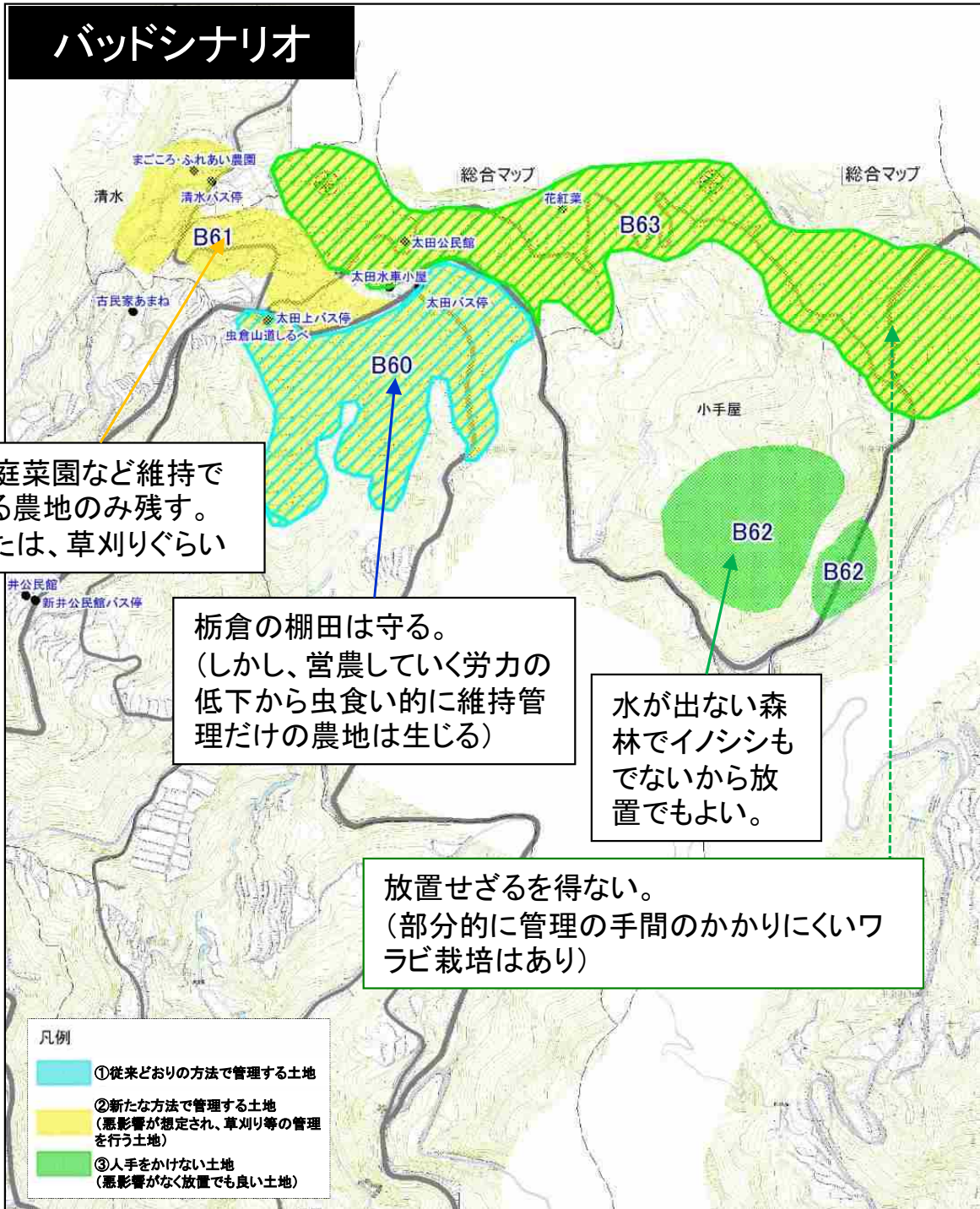
縁者や移住者など若い人がどんどん伊折地区に住むと見込んだ想定

※図中の番号は 95 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ

討議② B班【グッドシナリオ】のまとめ

バッドシナリオ



移住者ゼロであり、現状のまま将来を迎えることを想定

※図中の番号は 95 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ

討議② B班【バッドシナリオ】のまとめ

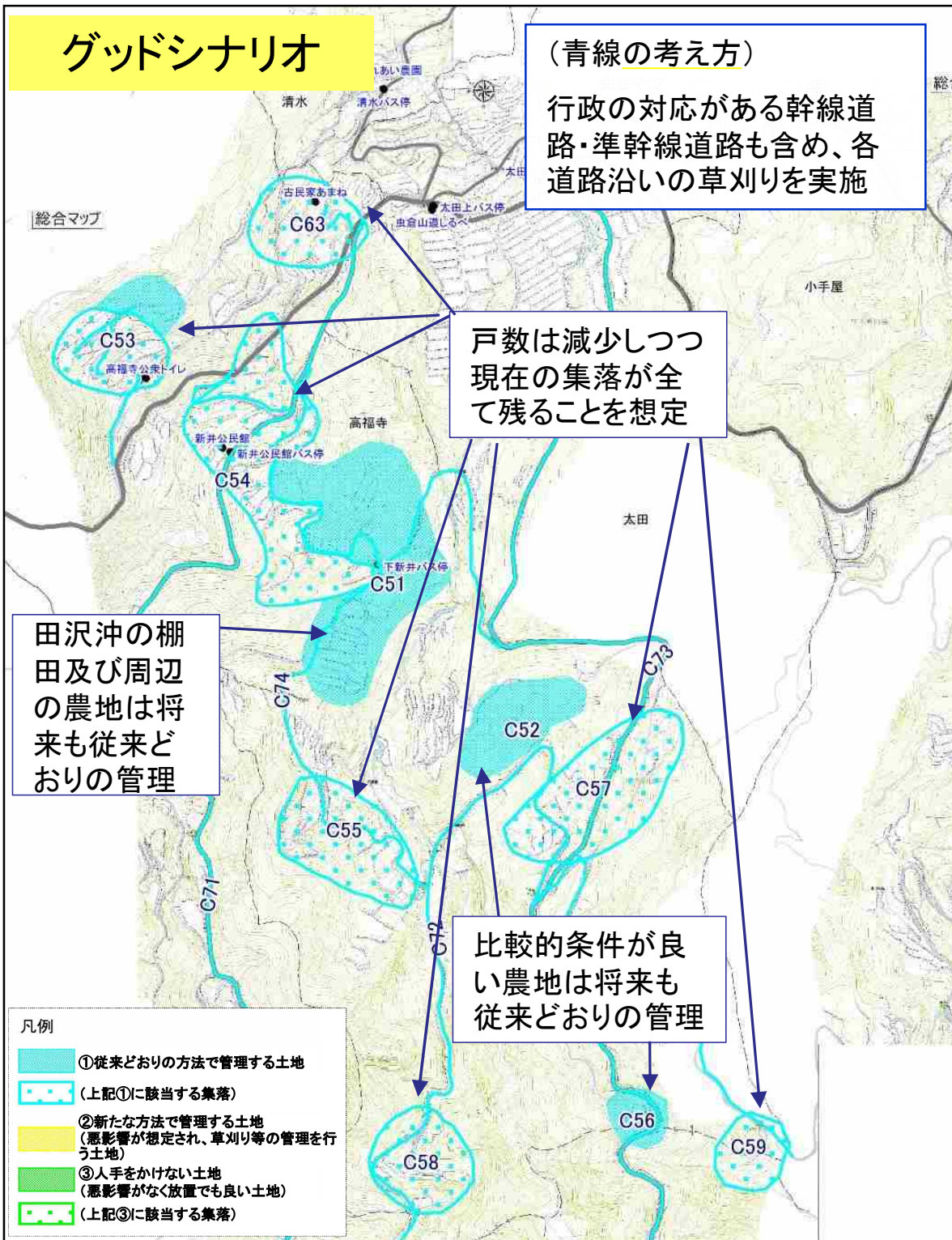
方針	グッドシナリオの意見	バッドシナリオの意見
従来どおりの方法で管理する土地	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者確保必要 (C51) 	<ul style="list-style-type: none"> ・跡取り何とか確保。集落農営で枥倉とセットで。収益化は難しい。面積も少ないので自家用につくるのがよい (C66) ・跡取り見込みあり? (C67)
	<ul style="list-style-type: none"> ・条件がよい (C52) ・田んぼ。息子が継ぐかは微妙 (C56) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・高福寺集落及び周辺 (C53) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高福寺集落 (C61)
	<ul style="list-style-type: none"> ・中上集落 (C63) ・新井集落 (C54) ・刈場集落 (C59) ・稗田集落 (C57) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中上集落 (C62) ・新井集落 (C60) ・刈場集落 (C65) ・稗田集落 (C64)
	<ul style="list-style-type: none"> ・沢尻集落。2軒くらい残るかも (C55) ・辻集落 (C58) 	
新たな方法で管理する土地	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の草刈り+住民の作業 (C71、C72、C73) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の草刈りのみで通行可 (C68、C69、C70)
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民で草刈り (C74) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を維持しないと家と家が結ばれなくなる。6~10軒で守る (C74)
人手をかけない(放置の)土地		

グッドシナリオ

(青線の考え方)

行政の対応がある幹線道路・準幹線道路も含め、各道路沿いの草刈りを実施

総合マップ

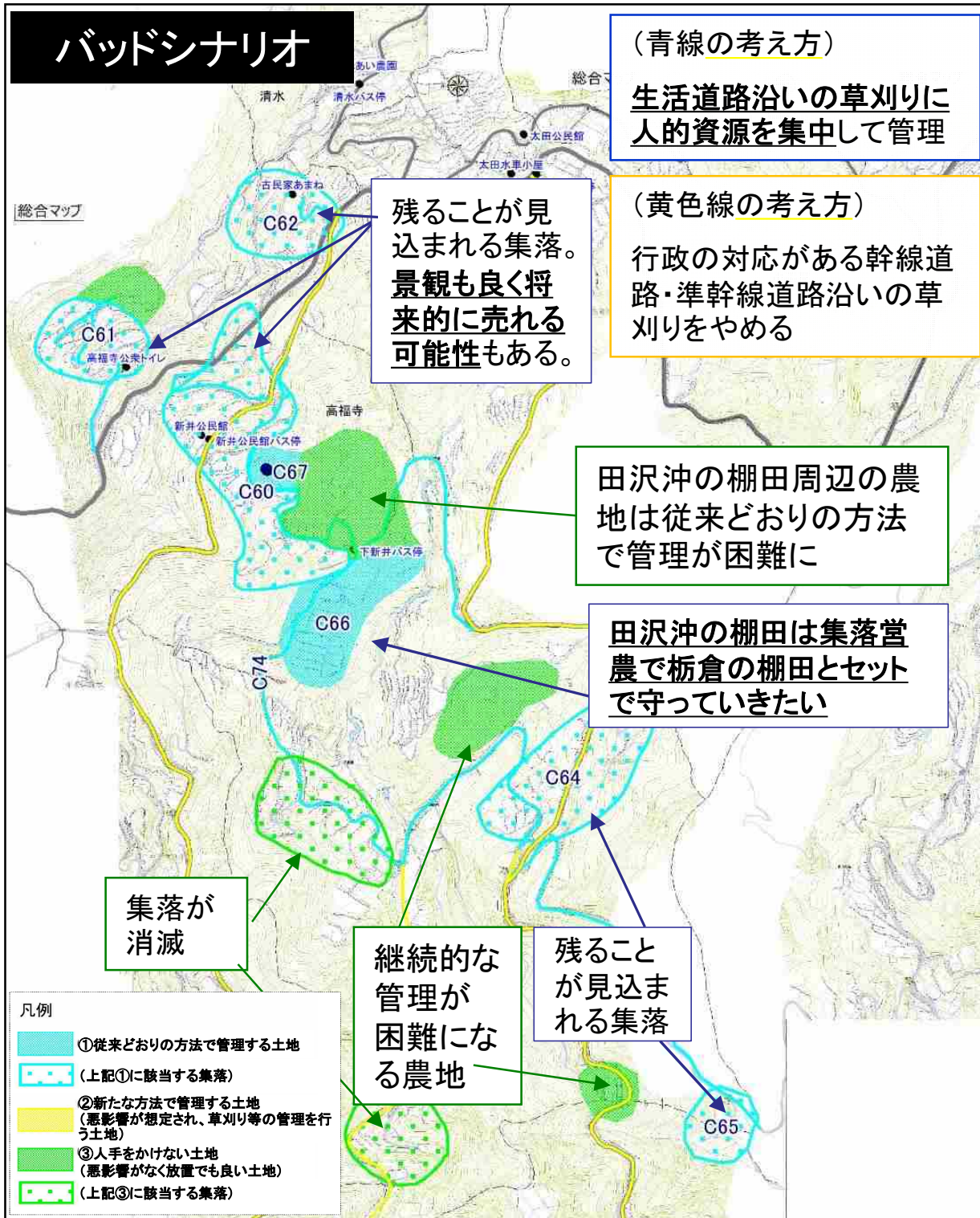


できる限りの現状維持を想定

※図中の番号は 98 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ

バッドシナリオ



集落に残っている人が最も少なく、土地の管理を支える地域外住民がいなくなることを想定

※図中の番号は 98 ページの表中の番号と対応

図：長野市総合マップ

全体を通じてコーディネーターの林先生からのご講評

<討議①について>

- ・A班に関してはサクラとかギンナンとか具体的な名前が出てきたのがよかった。よい農地を次の人のために、最低限残しておこうという発言が心強いと思った。
- ・B班は地図化することによって、分断された農地を守るのは難しいという話が出たと伺った。あえて地図に落とすことにより色々見えてきたことがあったということがよかった。山菜でやろうというように、管理レベルにも選択肢がたくさんあることが改めてイメージできたことも大きかったと思う。
- ・C班はすごくイメージ力が強いと思った。私は農村の研究で、よく雑談で10年、20年後をどうお考えなのかと聞くが、まず考えていない。知らないし考えたくないと言われる。漠然と想像はついていると思うが、考えることをシャットダウンされている方が多いと感じている。厳しい中でもC班は考えていこうというのが見えたのは、すごく心強く思った。例えば空き家でも、景観の良いところだったら売れるかもしれないとか、おもしろかったのは真ん中の田んぼがだめになったら、北と南の連絡が取れなくなるというのは、あくまで南が健在だからいえることだと言っていた。10年、20年にふさわしい村、ダイナミックな想像力が見られたのがよかった。

<討議②について>

○全体を通じて

- ・バッドシナリオを考えることは愉快的なことではない中で、皆さんがしっかり考えられたこと自体がすばらしい。
- ・ワークショップの最大の良さは、これを通じてその人自体の考えが変わること。終わった後のじりじり続くような効果が出てくるが、今日はグッドシナリオとバッドシナリオが出されたことは大きい。人間はグッドとバッドとかが見えないと、考えるのが嫌になる。良かったらこれ、悪くてもこれ、この中に収まるのがわかるだけでもものすごく大きな一歩。それがわかった瞬間に自分の頭でもっと建設的に考えようというパワーが湧き出してくる。今後の建設的な指向に向けて、すごく大きな影響があったのではないか。

○各班の討議内容について

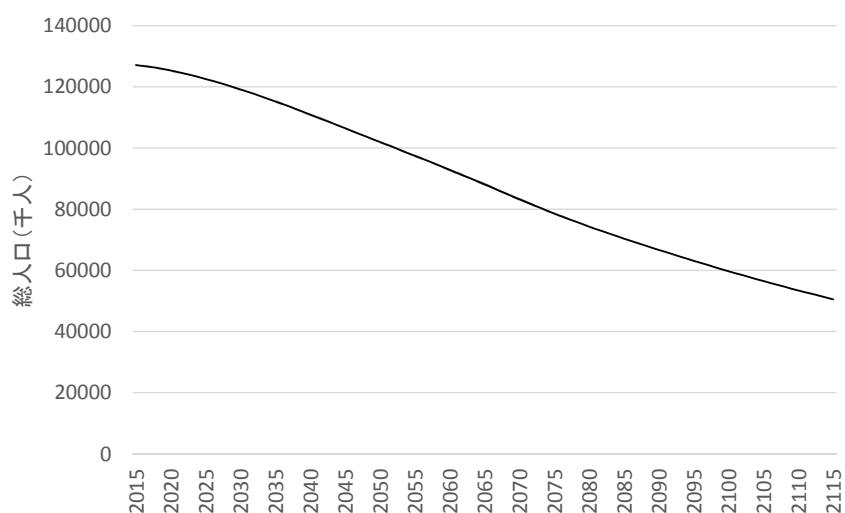
- ・A班は個人的な名前や話がすごく出てきているがすごい。シナリオの条件としての戸数もちゃんと出していた。数字に基づいた議論はとても大切。仮でもよいのでまず数字を置いてみることはすごくよい。また、グッドのシナリオでも厳しい、なかなか辛いところはあるが、それが見えたことは大きい。
- ・B班はグッドとバッドの差が最も激しかった。バッドは気が重いという言葉も聞かれたが、山のある部分はイノシシも出ないので放置しておいても大丈夫という意見が出ていた。山林は均質のイメージがあるが、林業の方に言わせると場所的な個性がすごくある。そこまで目をやった結果、放置しておいても大丈夫ということが出せたのは非常に心強い。
- ・C班は集落営農の話も出たし、面で守るというところから点と線、ネットワーク的に守るということで、厳しいながらも前向きなものが出てきたところが特出しすべきところだった。

戦略的に考えるとは

金沢大学人間社会研究域人間科学系・准教授
特定非営利活動法人国土利用再編研究所・理事長
博士（農学） 林 直樹



楽観は禁物



日本の総人口（出生中位・死亡中位）

国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口（平成29年推計）』
http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/db_zenkoku2017/db_s_suikeikekka_1.html

「恵まれた過疎」から「厳しい過疎」へ



第1章 戦略論入門

本日はいきなり戦略を話し合う必要はありませんが、これを意識しておくとし合いの質がより建設的になるはずです。



身近な戦略論

アルバイトで旅行資金をためながら、夏の旅を考える場合

- ・行き先に関する方針を決める(戦略)
 - ・第一希望は北海道1週間周遊。お金がたまらなかつたら金沢市1泊2日の旅。
- ・そこに向かうルートや宿を探しておく(計画／技術論)。

高校生が大学入試を考える場合

- ・志望校に関する方針を決める(戦略)
 - ・第一志望は国立大学。夏になっても数学の偏差値が低い場合は、第二志望の私立文系(数学がない)に変更。
- ・効率的な勉強法を探す(計画／技術論)。

- ・就活や婚活も同様。



戦略的に考えるために

「先のことわからない」という認識を持つ。

複数のゴールとその採用条件をあらかじめ決めておく。
成り行き任せの目標変更ではない。

厳しい状況での「保険」「セーフティーネット」が特に重要。

最後まで思考を止めない。神頼みだけではダメ。



むらづくりを戦略的に考えるとは

- ・どのような場合に必要？
→先がわからない長期的な生き残りなどを考えるときに必要。
長期的: 数十年以上の時間スケール
- ・どうすればいい？
 - ①ものごとに優先順位をつける(最悪の状況にヒントあり)。
 - ②譲ることができないラインを明確にする。
 - ③優先順位の低いものを削り、青写真を複数描く。

最悪の状態(最優先のみ死守)から考えるほうが楽。

青写真の例を収集することも大切。バラ色の設計図だけではダメ。



例：田畑の将来を戦略的に考えてみよう

- ・優先順位1：後生の人々の選択肢（備考：四方が太陽光パネルのがれきの山）
- ・優先順位2：田畑としての「土」
- ・優先順位3：田畑として使用すること

...

- ・1番のみを死守する場合（最も厳しい状況を想定した保険）
 - ・所有者があやふやな土地を確認
 - ・土地利用の方針を決めておく
- ・1番2番を守る場合
 - ・放牧などで広範囲を草地として維持する（復旧容易）。
 - ・所有者があやふやな土地を確認
 - ・土地利用の方針を決めておく



田畑の粗放的な管理



現状維持



粗放的な管理（放牧）



放棄（わるい選択肢ではない）

- ・粗放的な管理：田畑としての土地の潜在力を低コストで維持。
例：ウシを放牧し、雑草地として維持する。
→比較的短期間で復旧可能



・保険的なものがあると、気が緩み、むらおこしへの努力を怠るようになるのでは？

→責任ある社会人なら

- ・自動車保険に入っても安全運転の手を緩めることはない。
- ・医療保険に入っても暴飲暴食をはじめることはない。

→逃げ場を奪うことで瞬発的な力が発揮されることがあるが、長期的には消耗と思考停止を呼び込む可能性がある。



第2章 諦めない人たち

どのような厳しい状況でも諦めない人たちの姿を見てみましょう。「諦めない思考」の底力を感じてください。



無住化保険付きの農村:小松市西俣

- ・定住者は10人と少々、最年少は70歳代なかば。
- ・転出した人々(外部旧住民)が草刈りなどの貴重な戦力に。
- ・離村二世もお祭りに参加→世代的な継承へ。

無住化しても、**それなりに維持**される可能性が高い(保険的)。→
共同体や土地が健在なら、**将来的な再興**も可能。



無住だが田畑が維持されている例:北秋田市(旧)小摩当

秋田県北秋田市。1972年、ふもとの小学校跡地に移住。写真左側は跡地の耕地、右側は移住先(いずれも2015年の状態)。



参考:佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997

通勤耕作も一つの完成形



無住状態からの再居住化の例：京都市左京区大原大見町



1973年、集団離村により無居住化したが、2008年、元住民の子孫が移住した。

参考：松崎篤洋・山口純・本間智希・川勝真一・北雄介「大見村における無住化集落再生活動の発足と展開－京都市北部における無住化集落再生活動（その2）－」『日本建築学会大会学術講演梗概集』7-8、2015

→ただし、冬期は無居住（関係者からの聞き取り）。限定的な再居住化。



石碑が頼りの「津江」

小松市・津江：
訪問困難、石碑が唯一の頼り。



第3章 国民全員から必要とされるむら

究極の保険：民俗知

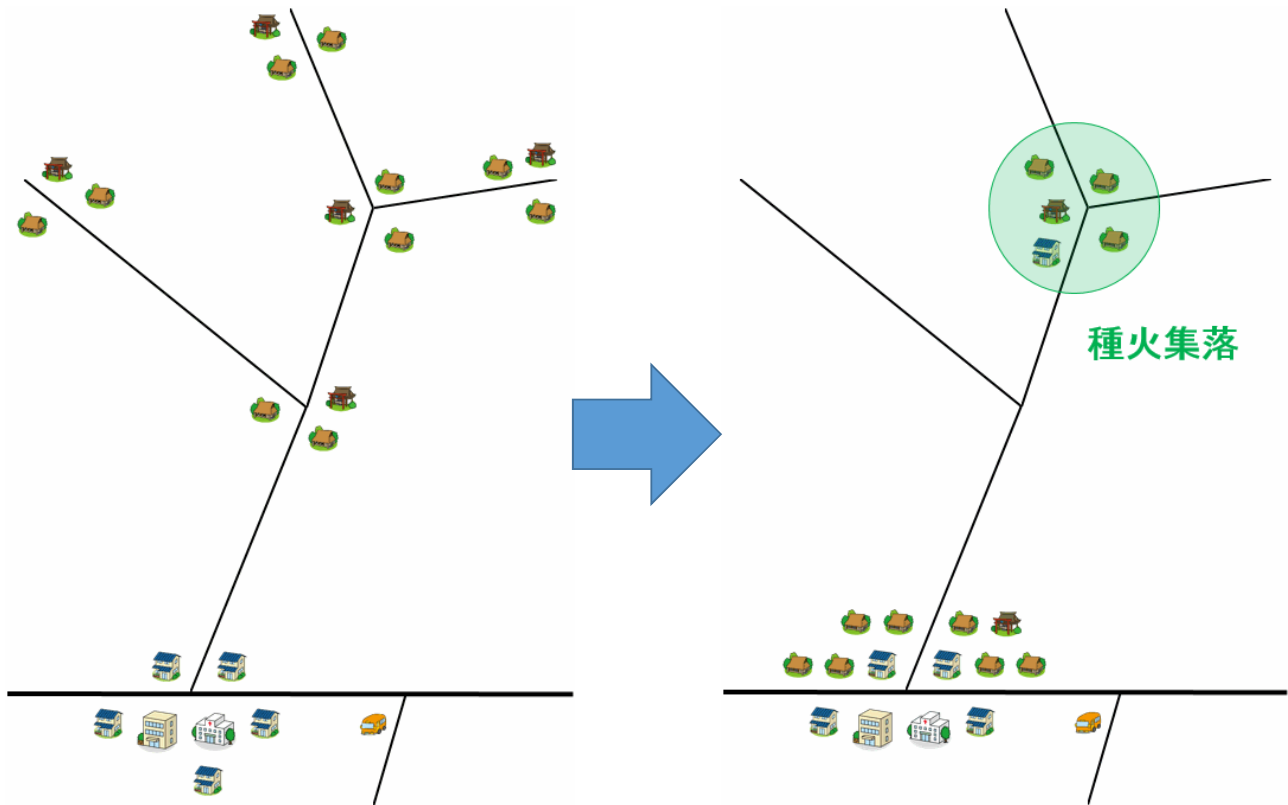
- ・山野の恵みを持続的に引き出す「文化的な技術」(民俗知)
- ・人さえ住んでいれば自動的に保持されるということではない。

万が一の長期的な食料不足、エネルギー不足に対する備え(国民的な保険)とみなすことができる。



撮影：永松敦氏(許可を得て使用しています)

少ないマンパワーで民俗知を継承



遺伝子資源減少対策としても効果的

議論を不毛なものにする方法

- I WANT (わたしはこうしたい)
- I WILL (わたしはこうする)
- I CAN (わたしはこれができる)
- We SHOULD (わたしたちはこうすべき)

上の4側面のぶつけ合いに持ち込むと不毛になります！